

# 猛暑下の墓経で使って

佛英堂と  
三重化学 専用ネッククーラー共同開発



お坊さんネッククーラーを持つ（左から）楊さん、山川専務、竹上市長、野呂専務

市役所で

社長）が、僧侶向けの「お坊さんネッククーラー」を共同開発した。7月から佛英堂が販売を開始した。

猛暑の中で墓経をする僧侶に朗報——。松阪市ハンズオン支援事業の2019（令和元）年度採択事業者の佛英堂（同市中町、野呂英史代表取締役社長）と、17（平成29）年度採択事業者の三重化学工業株（同市大町、山川大輔代表取締役

同製品は、「サブスク型のお墓 徳墓（しほ）」を運営する佛英堂が、提携寺院を対象に市場調査した上で商品企画。長年培った保冷剤技術を使って医療機器の各種ネッククーラーを手掛ける三重化学工業が商品開発した。

ポリエステル素材の細長いカバー（長さ101センチ、幅6センチ）の中に保冷剤を並べて詰めた作りで、法衣の襟下に装着して、目立たず違和感なく使える。先端には面ファスナーが付いており、装着中にずれない。カバーは取り外して洗濯できる。中町の佛英堂の店頭とウェブサイトで税込み2500円で販売している。

佛英堂の野呂英日専務取締役（37）と三重化学工業の山川輝専務取締役（36）、同社の開発担当者の楊美娟（ヤン・メイジエン）さん（34）が7月31日に市役所を訪れ、市ハンズオン支援事業採択事業者同士の共同開発の成果を報告した。野呂専務が、三重化学工業の山川社長（45）に相談したのが開発の端緒

に。野呂さんは「どんどんお寺さんと提携しながら徳墓の事業を進めていく中で気付いたのが、夏のお盆参り、墓回向、墓経のこの時季、お坊さんは大忙しだが、ここまで気温が上がってくると、継続が難しいとおっしゃるご住職もおられ、お手伝いできないかなと、三重化学の山川社長にご相談しました」と振り返る。既存の一般向けネッククーラーはあるが派手な物が多く、法衣には合わない。そこで衣の下に付けても目立たず、首回りに沿わせて冷却効果も高くなるようにと、1年かけて商品化にこぎ着けた。1回の墓経は15分ほどで、お坊さん向けネッククーラーは一回凍らせると30分から1時間持つという。